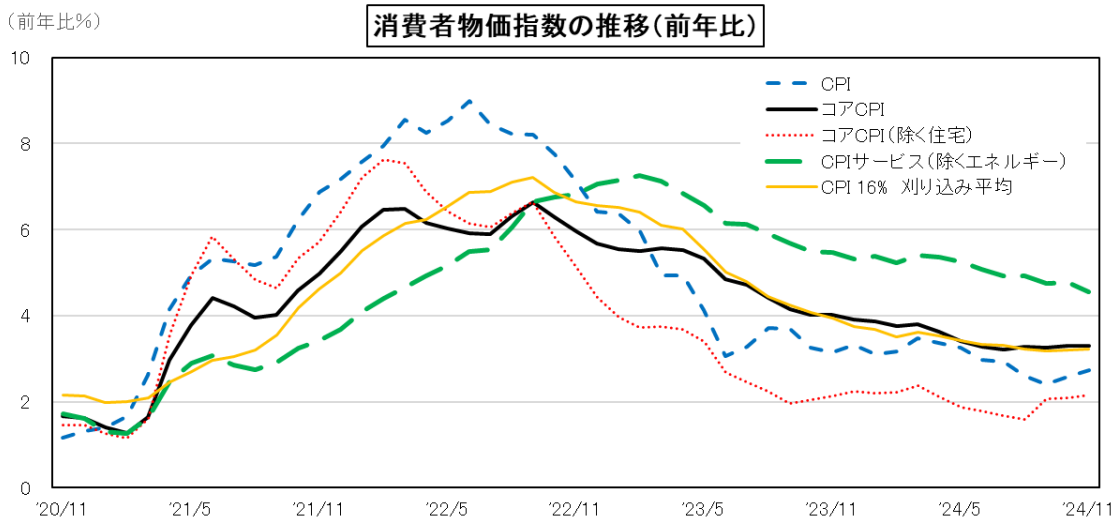
リサーチ＆ソリューション第１部　佐古 佳史

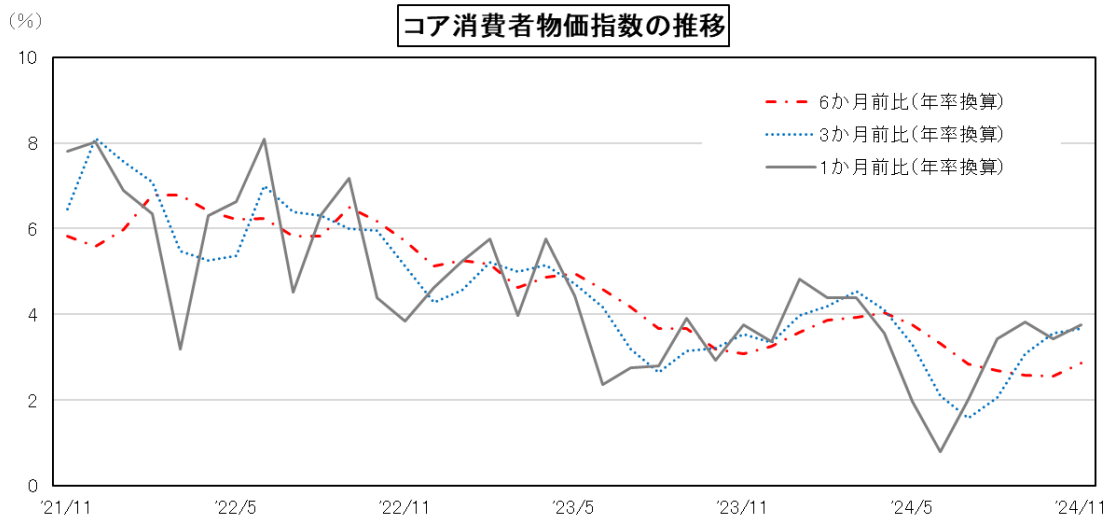
（米国）下げ渋りが続くコア CPI、足元では鈍化傾向のコア PPI

11 日に発表された 11 月の消費者物価指数（CPI）は、総合が前年比 2.7%（前月比は 0.3%）、食料とエネルギーを除くコアは同 3.3%（同 0.3%）となり、前年比でみれば引き続きコアインフレ率の下げ渋りが確認された。エネルギーを除いたコアサービスの上昇率は 10 月から変わらずの前月比 0.3%となり、8、9 月の同 0.4%から小幅に鈍化した。また、高止まりが指摘されることが多い帰属家賃と家賃はいずれも同 0.2%へ鈍化した。



（資料）米労働省統計局、LSEG

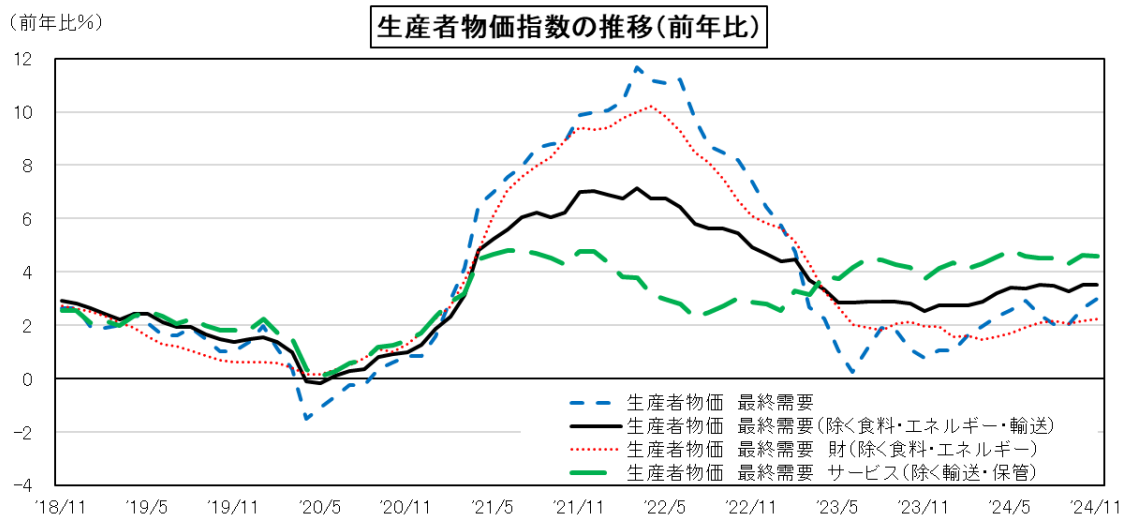
コア CPI についてより足元の動きを確認しやすい 1、3、6 か月前比（年率換算）を計算すると、11 月はそれぞれ 3.8%、3.7%、2.9%となり、24 年半ばに鈍化傾向が強まったものの、最近は再加速ぎみとなっている。



（資料）米労働省統計局、LSEG

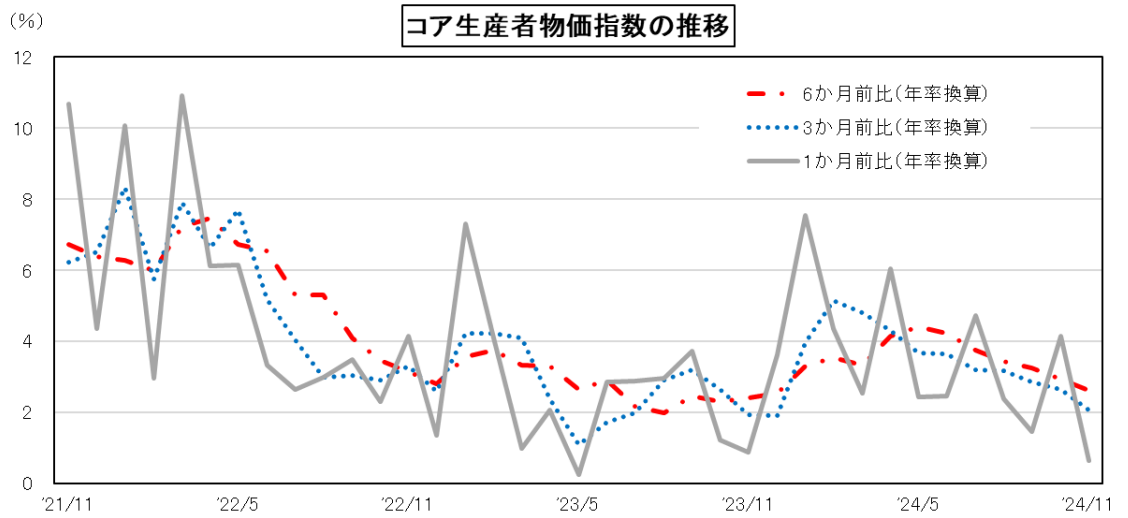
ここに掲載されているあらゆる内容の無断転載・複製を禁じます　https://www.nochuri.co.jp/

12 日に発表された 11 月の生産者物価指数(PPI、最終需要区分)の動きを確認すると、総合は前年比 3.0%(前月比 0.4%)、食料・エネルギー・輸送を除くコアは同 3.5%(同 0.1%)となった。内訳をみると、財(除く食料・エネルギー)については前年比 2.2%と同 10.2%とピークをつけた 22 年 4 月から大幅に鈍化している。一方のサービス(除く輸送・保管)については同 4.6%となった。前年比でみれば財以外の区分で下げ渋りが続いているといえる。



(資料)米労働省統計局、LSEG

最終需要から、食料・エネルギー・輸送を除いたコア PPI について、より足元の動きを確認しやすい 1、3、6 か月前比(年率換算)を計算すると 11 月はそれぞれ 0.6%、2.1%、2.6%となった。振れ幅は大きいものの、最近の PPI は鈍化傾向となっている。



(資料)米労働省統計局、LSEG

11 月の物価統計からは、コア CPI インフレ率が依然として下げ渋っていることと、PPI は前年比で高止まっているが、足元では鈍化傾向となっていることなどが確認された。金融政策との関係では、CPI がほぼ事前予想通りの内容となったこともあり、12 月 FOMC での利下げを後押しする内容となったといえる。一方で、コア CPI の下げ渋りが続いていることから、25 年入り後は利下げの一時中断が検討される可能性が高まったと思われる。

ここに掲載されているあらゆる内容の無断転載・複製を禁じます https://www.nochuri.co.jp/